

# キャベツ

アブラナ科：地中海沿岸

## 栽培暦

月	2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			1		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	春播き							○	—	△	—	—	—	—	—	—																				
	初夏播き																○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	夏播き																																			
	秋播き																																			

### ■栽培のポイント

1. 作型にあった品種の選定。
2. 根張りが良く、徒長しない健苗の育成。
3. 病虫害防除の徹底（根こぶ病、アオムシ、コナガ）。

■品種・種子量 初、初夏播き：金系 201 号。夏播き：YR青春、初恋。

秋播き：春ひかり。a 当り 6~8 ml。

### ■育苗

**播種** セルトレー育苗と露地畑育苗があるが、セルトレー育苗が管理しやすい。128 穴セルトレーに市販の野菜専用で肥料分の少ない培養土を詰め、播種前に培養土が均一に湿るよう十分にかん水する。10mm 程度の深さに 1 粒ずつ播種する。セル間の仕切面がみえる程度に覆土し、発芽までは濡れ新聞等で被覆し乾燥を防ぐ。

**育苗** 発芽したら新聞紙を取り除き（播種後 2~3 日）、セルトレーは水稲用育苗箱に載せ、それをパイプ等の上に置き高床式にする（地面と空間をあける）。その後はムラがないようにかん水する。4 月播きではハウス内またはトンネル保温育苗、その後は雨よけや寒冷しゃ被覆をして育苗する。温度管理に注意し、徒長しない「がちり」した苗に育てる。播種後 10~15 日目以降は、肥切れしないように液肥で追肥を行う。

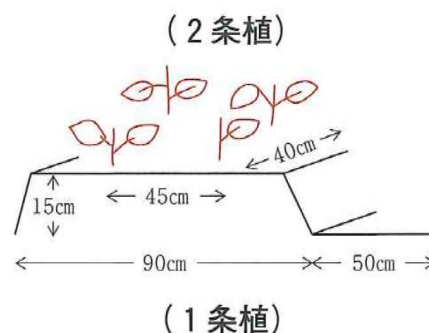
育苗期間は 20~25 日で、根鉢が 2/3~3/4 くらいまわり本葉 3 枚頃に定植する。また、7.5~9 cm ポリ鉢に移植し大苗にして定植してもよい。

施肥例

(a 当り)

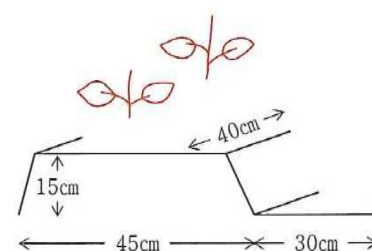
うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	500kg	—kg	成分量
苦土石灰	12	—	窒素 2.6kg
苦土重燃燐	4	—	燐酸 2.9
ホーソ入りそさい2号	14	—	加里 2.1
燐硝安加里 S604	—	5	



■定植準備

**施肥・うねつくり** 根こぶ病の常発地では、防除薬剤を全面散布し、その他堆肥、苦土石灰、基肥を全面散布後耕うんし、うね幅 1.5m、ベッド幅 90 cm の半高うねをつくる。植え付け距離は、株間 35 cm、条間 45 cm の 2 条植えとする。1 条植えの場合は、うね幅 75 cm、株間 35 cm とする。



■定植 植え穴には十分かん水し、しみ込んだところで定植する。根鉢を崩さないようにし、深植えに注意し、植え傷みを防ぐ。

■定植後の管理

**追肥** 植え付け後 15 日頃と結球始めの時に、速効性の肥料をうね間に施用する。

**かん水** 乾燥続きの時は、かん水の効果が大きいので、必要に応じてかん水を行う。

**病虫害防除** 根こぶ病は土壌水分が多く、酸性土壌やアブラナ科野菜を連作した場合に発生しやすいので、連作を避ける。作付け前の防除も徹底する。

その他病害ではべと病、黒斑病、害虫ではアオムシ、コナガ、ヨトウムシ、アブラムシが発生するので、早期に防除する。特に、コナガは薬剤抵抗性が出やすいので作用性の異なる薬剤を散布する。

■収穫 結球し、しまりの良いものから順次収穫する。収穫後の切り株は病虫害の発生源となるので、茎葉や根株の残さは整理する。収量は a 当り 500~600 kg である。